



広島県の巨樹・巨木

樹のエネルギーにふれてみよう!

〈出展:「ぶらっとひろしま」2008年夏号 広島県観光連盟発行 ほか〉



で みせ こんげん

① 出店権現のウラジロガシ

安芸高田市美土里町 **県天然記念物**

ウラジロガシとは、西日本でも比較的暖かい土地に自生している常緑広葉樹。ここ出店権現のそれは、樹高約19m。1本の巨木だが、根元近くから6本の小さな幹に分かれているのは、かつて寄せ植えしたものともいわれている。それぞれの幹から枝がひろがり、東西南北それぞれ20mほどの範囲に樹勢よく葉を繁らせているさまは、遠目にはまるで森のような威容を見せている。



や さか

② 八栄神社の大ヒノキ

北広島町岩戸中の宮 **県天然記念物**

広島県内最大級のヒノキが2本。同じ境内に立っている。一本は、その大きさもさることながら生命力あふれる力強い根の張り方が特徴的。圧倒的な存在感で見る者を魅了する。もう一本は、対照的にまっすぐ天に向かって直立している。一方が荒々しい分、こちらは気品すら感じさせる大木だ。広島県天然記念物に指定。



か い た かん の ん めん

③ 海田観音免のクスノキ

海田町畝 **県天然記念物**

樹高約29m、胸高幹囲6.4mで樹齢400年以上だが、まだまだ樹勢もあり、春ともなると、あざやかな緑の葉が森のように生い茂る。根元近くに観音堂があるのも風情がある。海田町ふるさと館の裏手にあり、近くには古墳や竪穴式住居の復元模型、埴輪の展示など歴史公園として整備されている。広島県天然記念物に指定。



に か

④ 仁賀のシラカシ群

三次市三良坂町仁賀 **県天然記念物**

シラカシは、カシ類のなかでも最も寒さに強く、そのため県北地方にはよく見られる樹種。根回り5.83mの主木のほか7本のシラカシが集まって豊かな広がりを見せており、遠目にはひとつの森を形成しているようにも見える。主木はシラカシとして県内でも有数の巨木で、県の天然記念物に指定されている。



ふ く じょう じ

⑤ 福成寺の巨樹群

東広島市西条町

広島カンツリー倶楽部ゴルフ場の中を抜けるように、山道を登り切ったあたりにある古刹福成寺。境内やその周辺には、トチノキ、モッコクなどさまざまな巨樹が屹立しているが、なかでも仲良しくまっすぐに立ち並ぶ夫婦スギがその威容を誇る。歴史深いお寺の姿とともに、付近一帯が森厳なるたたずまいだ。



く に どめ

⑥ 国留のヤブツバキ

府中市上下町国留時鳥

推定樹齢350年。墓所の中にある。地域の時の移りを見つめてきた。もともとツバキは巨大化しない樹種だが、樹高約8m、幹周囲約2.2という大きさのツバキは大変珍しい。樹勢は旺盛で、春先にたくさんの花をつけ、巨樹が赤に染まる。ヤブツバキとしては県下第2位の大きさである。



か み た か の や ま ち さ ぎ

⑦ 上高野山の乳下りイチヨウ

庄原市高野町

推定樹齢1000年ともされる老木でイチヨウとしては県下第1位。まるで氷柱のような「乳」といわれる気根は、部分的な栄養過多によって徐々に垂れ下がったものといわれている。まさに奇樹ともいえるが、生命力あふれるその姿は荘厳ですらある。紅葉から落葉の時期は、あたり一面黄色の絨毯がしかれる。



お お あ さ ち ょ う

⑧ 大朝町の大アベマキ

北広島町大塚 **県天然記念物**

矢熊城跡の丘の上にあることから、別名を矢熊のミヅマキ。アベマキとしては唯一の広島県天然記念物指定となっている。通常、良材として利用されるため、アベマキの多くは、これまで伐採されることが多く、県内ではこのアベマキが最大級となる(高さ約30m)。その貴重さもあって広島県の天然記念物に指定されている。



ひ ら こ

⑨ 平子のタンバグリ

庄原市西城町 **県天然記念物**

推定樹齢500年の老木は、県内最大のクリの木。幹の一部は裂けたようになっていて、一部空洞化している様子。かつては、このなかにミミツクが棲んでいたという。タンバグリとは丹波国(兵庫県)原産のクリの木で、大きい実をつけるのが特徴。民家の敷地にあるため観賞には節度をもって。



か わ き た

⑩ 川北の大柿

庄原市川北町

田園地帯のなかに、一本堂々とした姿を見せている。柿らしいクネクネとした枝ぶりで天に向かって燃え上がるような姿や、すぐそばには祠があることなど、まさに神木の趣。時期ともなると、鈴りの状態で無数の実をつけるが、残念ながら渋柿だとか。樹齢500年。地域の守護神として今も人々に親しまれている。



お お た

⑪ 大田神社の大クスノキ

福山市藤江町 **福山市天然記念物**

まるで大ダコの様相。この特異な姿はインパクト十分な奇樹だ。大きく4本にわかれた支幹は、2本が天へ向けて高らかに伸びているのと対照的に、あとの2本はまるで地にたつように神社の境内からみ出している。力の限り生きんとするクスノキの生命力を感じさせて十分。福山市の天然記念物となっている。



は い づ か

⑫ 灰塚のナラガシワ

三次市三良坂町灰塚

もともと西日本によくみられたナラガシワだが、いまでは天然の木となると珍しいのだという。丘の上から地域の移り変わりを見守ってきた。近くにはダムで水没した灰塚の集落が広がっていた。その墓跡銘ともとれる巨樹は、ダムが完成してなお樹勢も十分。地域の人々の心に長く残っていく名木である。

